

(7) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、おおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_ は上方に変更、 _ は下方に変更)

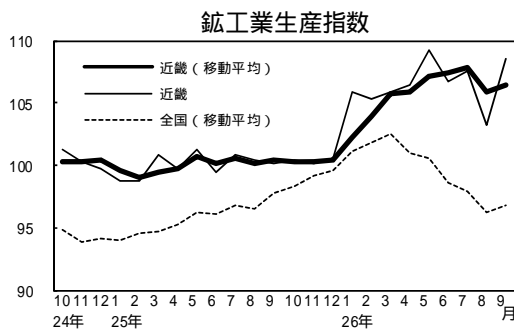
前回調査からの主要変更点

	前回(平成26年8月)	今回(平成26年11月)
鉱工業生産	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるが、持ち直しの動きがみられる	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、おおむね横ばいとなっている

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、おおむね横ばいとなっている。

7～9月期には、はん用・生産用・業務用機械は、ガスタービン等でまとまった出荷があったこと等から増加した。化学は、合成アセトン等で増加した。電気機械は、冷夏や雨が多いなどの天候要因でセパレート型エアコンが減少したこと等から減少した。輸送機械は、お盆等で稼働日数が少なくなったことから駆動伝導・操縦装置部品等で減少した。食料品・たばこは、飲料で増加したこと等から増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
はん用・生産用・業務用機械	17.4	0.1	0.7	15.0	16.4	6.1
化学	16.8	3.9	1.2	0.9	3.4	1.8
電気機械	9.0	1.1	9.8	8.4	1.1	7.8
輸送機械	8.4	0.5	6.1	7.5	1.7	5.9
食料品・たばこ	6.7	24.9	6.5	1.4	1.5	11.4
鉱工業	100.0	1.7	0.9	0.8	4.1	5.2

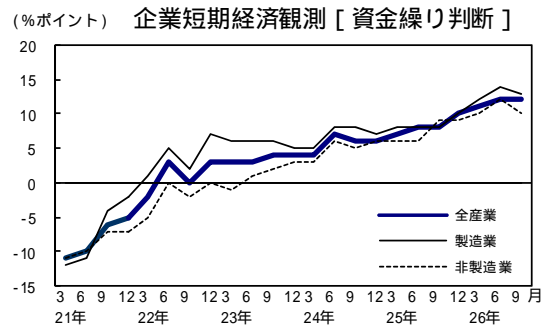
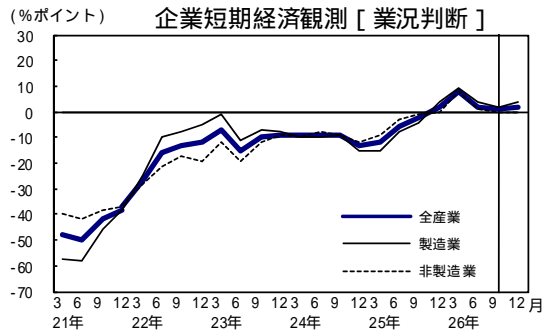
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。

2. 全国及び近畿の大線は後方3か月移動平均。

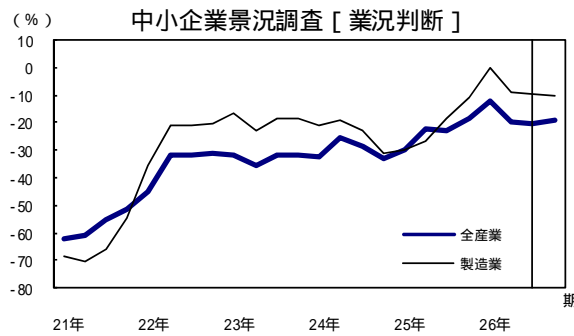
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年12月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。

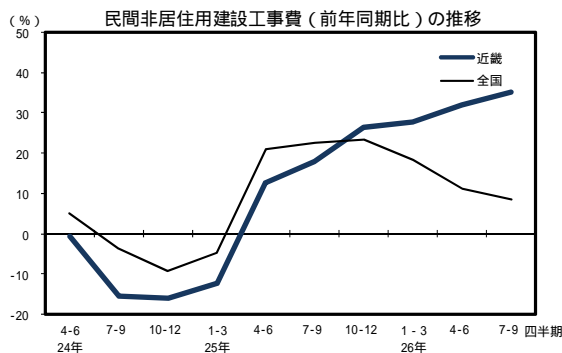


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「ステンレス材の値上げ幅には、中小企業向けと大企業向けで大きな差があり、販売価格に転嫁できず採算が悪化している(金属製品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	25年度実績	26年度見通
全産業	0.3	12.9(0.4)
製造業	5.1	11.1(0.7)
非製造業	3.9	14.0(1.1)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.0%増、8月は同3.4%増、9月は同3.3%減となった。

大型小売店販売額

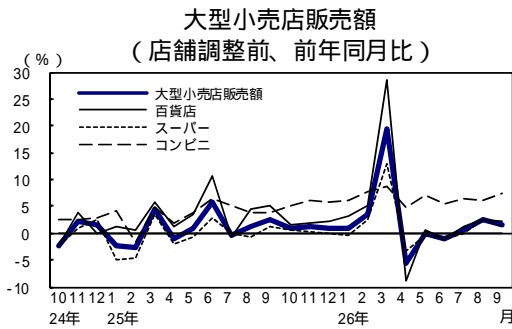
百貨店は、7月は、後半気温が上昇し、盛夏物に弾みがついたことや、化粧品が消費税率引上げに伴う反動減から戻ってきていること等から前年を上回った。8月は、時計・宝飾品が回復してきたほか、低気温で秋物が伸びたこと等から前年を上回った。9月は、秋物が順調に動いたことや、化粧品や高額品が回復したこと等から前年を上回った。

スーパーは、畜産、水産が好調だったことに加え、化粧品が好調だったこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月) [家計動向関連 (現状)]

近畿地域の家計動向関連DIは、45.9となり前月より4.3ポイント低下した。

「台風の上陸が多く、週末に重なったこともあり、来客数は激減している(スーパー)」など、「やや悪くなる」とする回答が増加した。

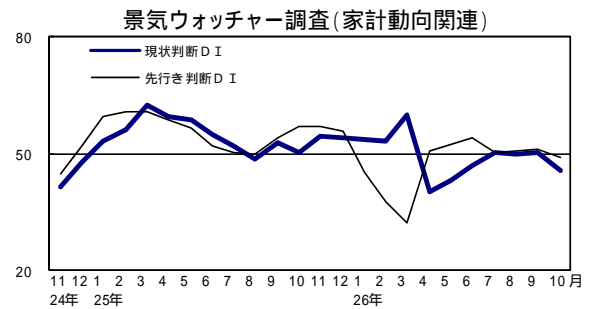
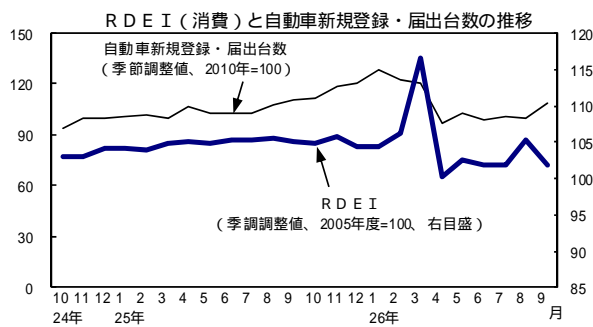


	26年7-9月	26年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	1.5	0.0	3.4	3.3
大型小売店(*2)	1.5	0.5	2.4	1.6
百貨店(*2)	1.9	1.2	2.4	2.2
スーパー(*2)	1.2	0.1	2.4	1.3
コンビニ(*2)	6.6	6.4	6.0	7.5
乗用車(*3)	3.0	1.8	9.0	0.1
(季節調整値)(*3)	3.7	1.5	0.7	9.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

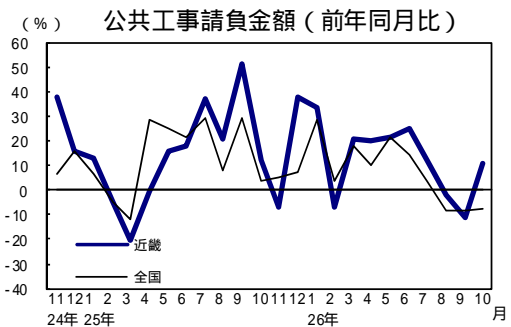
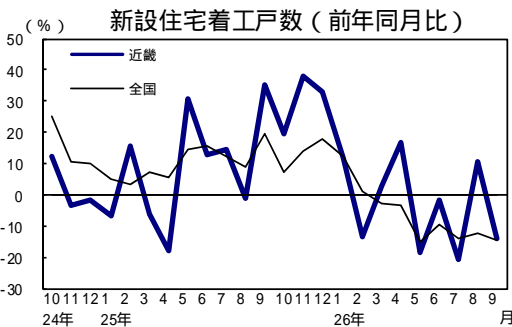
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は減少している。

貸家が前年を上回ったものの、持家、分譲が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は26年度累計で見ると前年度を上回っている。

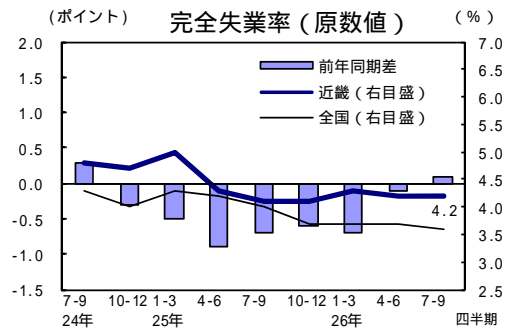
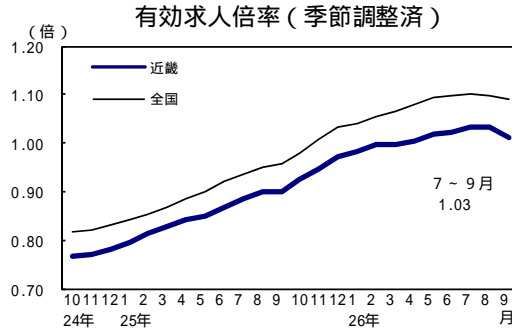


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連(現状)]

「求人数の伸びは落ちてきたが、求人のために訪れる企業数が大幅に増加している。来春入社分についても、継続して採用活動を行う企業が増えている(学校[大学])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年10-12月	26年1-3月	4-6月	7-9月	26年10月
倒産件数	651	612	670	624	212
(前年比)	14.3	9.9	6.3	3.9	11.3
負債総額	905	652	1,035	845	240
(前年比)	21.1	7.7	1.0	36.1	18.8



景気ウォッチャー調査 (10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- 国内旅行は、速度の遅い台風が3連休を襲い、交通網も乱れたことでキャンセルが多発した。海外旅行も円安の影響が徐々に出てきている。エボラ熱やイスラム国の動向を気にする人も若干出始めている(旅行代理店)

<先行き>

- 円安傾向やピザの支給条件の緩和、テーマパークの新アトラクション効果による好影響は、今後も当分は継続する(都市型ホテル)

